

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1997. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 163

日本野鳥の会 埼玉県支部

埼玉県支部についてのQ & A

第6回

今回は支部の普及活動について、榎本秀和普及部長が熱く語ります。

普及部はどんな活動をしているのですか？

野鳥観察という自然体験の場を皆さんに提供し、野鳥に関する科学的な知識や適正な保護思想を啓蒙普及させる、というのが普及部の活動です。

具体的には探鳥会などの行事の企画立案、実施ということになります。広い意味での探鳥会の準備として、開催地・探鳥コースの選定、リーダーの養成、PR活動なども普及部の活動といえるでしょう。

平成8年度は、41か所で95回（計画は45か所108回、うち雨天中止13回）の探鳥会が開催され、参加者の合計は3,974人に上りました。1か月に平均8回探鳥会が行なわれ、1回あたりの平均参加者数は42人ということになります。

探鳥会はどのように計画され、実施されるのですか？

探鳥会の企画立案から日程・リーダーの割り振りまでは普及部会（偶数月の第1土曜日）の場で行なわれます。そのあと毎月1回開かれる役員会にかけられることとなりますが、支部報『しらこぼと』の「行事あんない」や『野鳥』誌の「支部ホットライン」に掲載の都合もあり、少なくとも3～4か月前



浦和市・三室地区定例探鳥会

には決定しなければなりません。

役員会の議決を経た探鳥会計画は、普及部長から全ての役員・リーダーに通知され、あとは担当のリーダーの皆さんにそれぞれの探鳥会の運営をお任せする、という形で実施されています。

探鳥会のリーダーとなると、探鳥会当日はいうまでもなく、「行事あんない」原稿作成やコースの下見などの事前準備、探鳥会報告の作成などの事後作業があり、ここまでやってようやく1回の探鳥会が完結することになります。

探鳥会はどんな場所で開催するのですか？

探鳥会を開催する場所は、以前からよく知られている探鳥地であることも、最近誰かが見つけた新しい場所であることもあります。いずれにしても、自然が豊かで、いろいろな野鳥が観察できる場所ということになるでしょう。

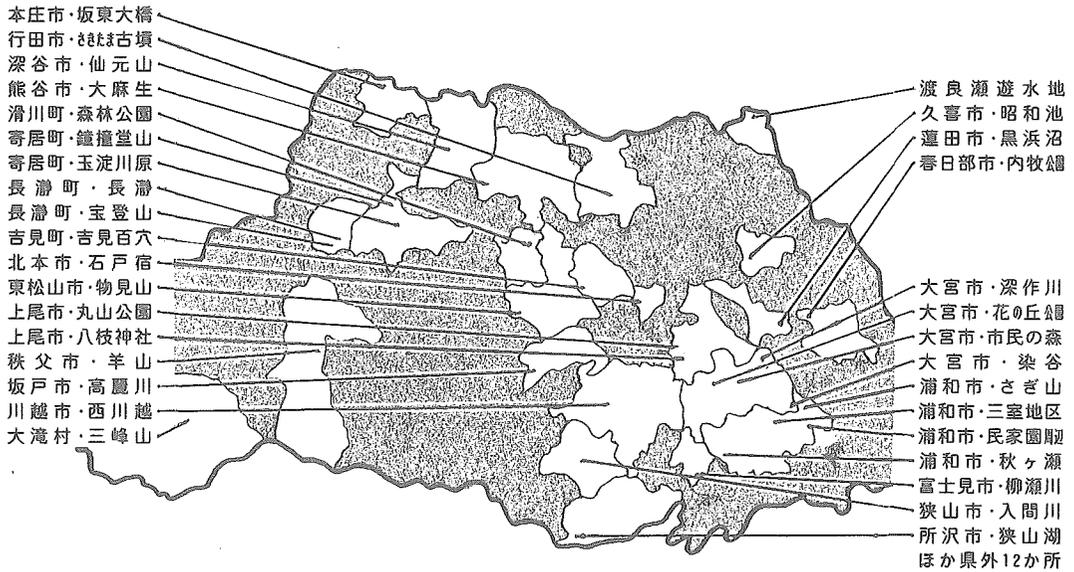
とはいうものの、そういう場所ならどこでも探鳥会ができるかというと、必ずしもそうではありません。

まず、不特定多数の参加者が集まるのだから、公共の交通手段があるということが大切な条件です。そして、何よりも優先されるのが安全の問題です。自動車の通行量、危険箇所、有害動植物の有無など、探鳥会の安全確保のため、コースの事前チェックはひじょうに重要な意義を持ちます。

それ以外にも、集合・解散の場所、歩く距離、地形の起伏、トイレの位置、天候の変化に対する対応など、細かい部分まで検討を重ねて、適当と判断されれば、その場所で探鳥会が開催されることになるわけです。

普及部としては、これからも引き続き探鳥会の開催地を拡大する方針です。会員の皆さん

平成8年度探鳥会地図



んのさまざまな要望に応え得る探鳥会を模索して行きたいと考えています。

探鳥会のリーダーはどのような人たちなのですか？

ご存知のとおり埼玉県支部には専従の職員がいるわけではありません。支部長以下役員・リーダーは皆さん無報酬・手弁当のボランティアであり、それぞれのできる範囲で探鳥会を担当しています。

探鳥会のリーダーのうち、チーフリーダーは支部の役員の方に担当してもらうことになっています。サブリーダーは、これまでにリーダー研修会に参加している会員の皆さんを、住所などを勘案して、普及部で振り分けさせていただいています。

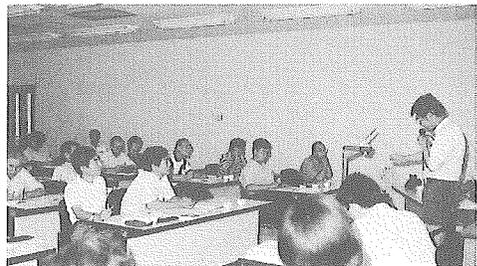
リーダー研修会には誰でも参加できますか？

埼玉県支部では、昭和60年からリーダー研修会を開催しています。ただ単に探鳥会のリーダー養成ということだけでなく、支部の事業全般を運営して行くためのボラン

ティアの裾野を広げ、マンパワーの層の厚みを増すという意味で、大きな役割を果たしてきました。

リーダー研修会は、支部会員であればどなたでも参加できます。特別な資格は何もありません。必要なのは野鳥に関する知識や経験ではなく、野鳥を愛する心とやる気です。

今年度のリーダー研修会は、自薦他薦合わせて13名の新規受講者がありました。来年はあなたもリーダー研修会に参加して、探鳥会でリーダーをやってみませんか。初めは「ちょっとお手伝い」で結構です。今までとは一味違う立場で、笑顔と熱意で、親切で安全な探鳥会をおおいに楽しみましょう。



リーダー研修会

森林公園から

谷津弘子（川越市）

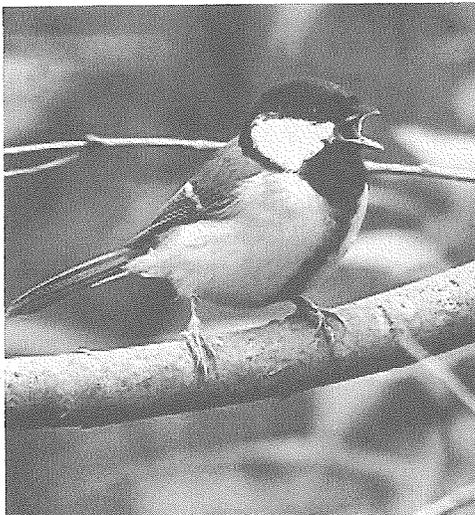
森林公園は野鳥や昆虫も多くとても素晴らしい所です。今でも代表的な里山の自然が残り、一年を通じて自然とのふれあいを楽しみにたくさんの人々が訪れます。

しかし公園であるが故に昔からの里山の自然も少しずつ失われてきています。トウキョウサンショウウオの生息地の保護に取り組んだ事が契機となり、私たちの会は5年前に発足しました。以来公園にサンショウウオを始め動植物の保全を考えた公園づくりを働きかけてきました。公園の方々と動植物の保全を考える検討会を行ったり、トンボ池の草刈り、水草の植栽なども行っています。また、毎月の自然観察会を通じ今では多くの方々に森林公園に足を運んでいただいています。

私たちの会の運営はすべてボランティアが基本ですが、多くの方々に支えられ会の活動も年々活発になってきました。このたび、日本野鳥の会から里山のNGO助成の対象団体に選定いただきました。私たちの会の活動にとり大きな力を与えて頂き大変うれしく思っております。今回ご支援頂きます助成金を有効に活用させて頂き、森林公園の里山の保全に一層努力していきたいと思っております。

ご支援本当にありがとうございます。

（武蔵丘陵森林公園の自然を考える会）



シジュウカラ（海老原美夫）

白馬だより

渡辺浩平（長野県白馬村）

例のヤツは、7月末にはいなくなった模様です。やはりカメラの人の中で、どこか雰囲気危ない人も何人か来ていました。パトロールやらで結構疲れました。多少珍しいとはいえ、どうしてあもひとつのものだけに異様な執着を見せるのか、小生にとっては信じられない世界です。しかし、若干の反省とともに、大きな勉強の場にはなりました。

今年のシーズンには間に合わない情報ですが、タカの渡りのポイントとしては、9月下旬の白樺峠がベストです。伊良湖よりもすばらしくて、特色は、かなりの個体が目線で見られること、谷間だから距離が近いこと、ハチクマが多いこと、などです。関心がある方には詳しい情報をお知らせしますので、TELください（0261-72-4491）。

10月初めには白馬自然観察会『秋』を開催しました。元気でやっています。

長崎県支部からの手紙（要旨）

拝啓 アカハラダカとハチクマの交差が見られる季節になりました。休日ともなると他県ナンバーの車も入り、烏帽子岳山頂は一際にぎわいます。いかがお過ごしですか。

さて、4月14日諫早湾締切りの愚挙に対して、貴支部会員の方々から様々な抗議の声を県や農水省に発信していただきありがとうございます。また、激励の手紙や署名を救済本部に送っていただき、あらためて貴支部との連帯を感じているところです。

署名は、20万名が全国から集まりました。10月の中旬に国会議員や弁護士と共に農水省へ持参の予定です。

諫早湾は淡水化と共に汚染の度合いが高くなり、一時的に分布を広げたシチメンソウが最近になって枯れ始めており、ハマシギ大群の反転の頭上での羽音も聞けず、他のシギチも激減しています。

野鳥の会は、今後とも定期的なカウントを実施し、水門開放に向けての資料や提言づくりに関わっていきたくと思っています。

7月号『野鳥』誌に署名用紙が挿入されて

おりましたので、貴支部を經由せず直接千潟救済本部に届いたものが多く、ひとり一人にお礼を兼ね途中経過もご報告したいのですが、人数が多くご容赦ください。探鳥会や役員会のおりに伝達などしていただければ幸いです。

1997年9月24日 日本野鳥の会長 崎県支部
事務局 執行 利博

朝霞の自宅

宇賀神若人（朝霞市）

自宅は東武東上線の朝霞駅南口より徒歩で7分のところにある。市役所にも近い閑静な住宅地で、多くは個人住宅、その中にアパートや丈の低いマンションが散在している。自宅は3階建て賃貸マンションの2階である。

地形的には荒川右岸の河岸段丘の上で、その昔は武蔵野の雑木林であったところと思う。この河岸段丘の崖っぷちには城山公園がある。この東側は荒川、新河岸川、黒目川がつくる氾濫原であったはずである。今では水田や住宅地になっている。氾濫原の名残の三日月湖は、JR武蔵野線からいくつか見られ、釣り堀“朝霞ガーデン”近くにもある。

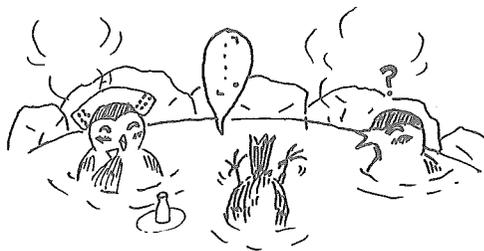
我が家の周辺にも武蔵野を思わせるものがある。そのひとつは細くくねくねと曲がった道で、もうひとつは柿の木である。釧路生まれの家内は、柿の実がなっているところを見た時はえらく感激していた。釧路には柿の木がないのである。私たちがマンゴヤパパイヤの木を見たことがないと同様なのだろう。

この柿の実、野鳥にとって大切な武蔵野のめぐみである。例年クリスマスの頃に収穫しているようだが、傷んだ実は残り、野鳥の餌になる。この家には2畳くらいの広がりをもつピラカンサもあって、凄量の実をつけてくれる。毎年1月になると、ヒヨドリがこれを食べているが、12月中は、この家の給餌台にのるパンの方がいいらしい。この庭は午後になると日が入り、その頃にジョウビタキのメスがよく来る。前はひと冬に数回だったが、昨年からの冬はしょっちゅうであった。ここで越冬していたと考えていいだろう。しかもこの給餌台の餌を主食にしている

と覚えてならない。この給餌台はよく開けたところに設置してあり、キジバト、ヒヨドリ、ツグミなどの比較的大きな鳥からスズメ、シジュウカラも利用している。

隣のAさん宅にも給餌台がある。穀物かパンがのっているのだと思うが、スズメが占領しているようだ。この家には更にもうひとつ給餌台が新設され、リンゴとミカンがのっている。これもヒヨドリの好物らしく、しょっちゅう飛来している。反対側の隣のHさん宅にも給餌台がある。これだけ給餌台を頼りにしていると、半野鳥化しているようで残念ではある。しかし冬鳥にとっては重要な越冬地には違いないこと、野鳥に関心のある人が多いこと、何よりも身近で野鳥に会えることは喜ばしい。

ツバキ、ピラカンサ等を庭木として植えている家は少なくない。自宅マンションにもツバキが14、5本あるが、毎年これを目当てのメジロを楽しむことができる。野鳥にとってもこのうえなく、ありがたいに違いない。さらにこの近所ではモズ、オナガ、ハシブトガラスをよく見ている。ジョウビタキのオス同士のなわばり争いも目撃した。住宅地のわりには自然の多く残された地域だと思う。武蔵野の豊かなめぐみは確実に減っているはずである。減った分が人の手で給餌台にのると思えば、心が温まるのである。



(押川歳子)

本部企画事業センターから

かねてより10月初旬を予定していた『新・山野の鳥』と『新・水辺の鳥』の発行は、制作工程の遅れにより、更に1ヵ月程度延期されることになりました。特に、既にご注文をいただいた皆様には大変申し訳ありませんが、今暫くお待ちいただきますようお願い申し上げます。

1羽、タカブシギ1羽、ハマシギ5羽、トウネン8羽、コチドリ多数、タシギ10羽（佐久間博文、島田恵司）。◇9月23日、ヒバリシギ1羽、ウズラシギ1羽、オオジシギ4羽、タシギ7羽、オグロシギ1羽、トウネン5羽、アオアシシギ2羽（島田恵司・沙織里）。

吉見町八丁湖 ◇9月18日、ミサゴ1羽。目の前でヘラブナをつかんで、山の向こうに消えた。◇9月22日、湖の北西側の山の稜線上の枯れた松の木でミサゴ1羽、トビ1羽。ミサゴは湖で大きなヘラブナを捕らえた（中村豊己）。

三郷市江戸川 ◇9月20日、排水機場周辺でノビタキ3羽。◇10月1日、JR武蔵野線と排水機場間でモズ4羽（岩瀬和志）。

秩父市の羊山公園 ◇9月23日、エゾビタキ約10羽。ミズキの実を食べていた。コサメビタキ2羽、オオルリ♀1羽、エナガ5羽。姿の池でカワセミ、ヤマセミ（山岸昭治）。

大宮市大谷 ◇9月28日午後5時頃、フクロウ1羽。上空通過（樋口信之）。

大宮市片柳 ◇9月29日午前9時、日大校舎上空でハチクマ1羽、サシバ1羽（樋口信之）。

岩槻市槻ノ森公園 ◇9月30日、ツツドリ赤色型、ヤマガラ、メジロ、キビタキ4～5羽（中村榮男）。

蓮田市黒浜 ◇9月30日、東埼玉病院上空でサシバ（玉井正晴）。

三郷市彦成3丁目 ◇10月1日午前7時30分頃、「ジェ、ジェ、ジェ」とウグイスの地鳴きに似て、それより弱く、間隔が長い正体不明の鳥を発見。肉眼で探すと、桜の一番高い梢にヒタキ類独特の止まり方。双眼鏡で確認するとこれがオオルリの♂だった。渡りの途中で、ちょっと寄ってくれたのだ（山部直喜）。



ダイゼン（海老原美夫）

江南町の荒川 ◇10月1日、押切橋～熊谷大橋間でダイサギ、アオサギ、トビ、コガモ♀1羽、バン成鳥1羽、若鳥2羽、ノビタキ冬羽3羽、カケス約10羽頭上を次々飛んで行った。モズ高鳴き。オオヨシキリのさえずりを久しぶりに聞いた。しばらく静かだったのでどうした事だろう（後藤康夫・喜久子）。

川越市入間川 ◇10月4日、ノビタキ2羽、アマツバメ11羽（石井幸男）。

吉見百穴付近 ◇10月4日、アマサギ4羽、稲刈りの終わった田んぼでコサギ4～5羽とさかんに餌をついばんでいた。アマサギはすっかり冬羽（後藤康夫・喜久子）。

小川町槻川 ◇10月5日、割谷橋付近でアマツバメ約40羽、イワツバメ、ツバメが頭上を飛び回っていた。カケス3羽（後藤康夫・喜久子）。

川里村 ◇10月5日、休耕田でツルシギ若鳥1羽（樋口信之）。

浦和市秋ヶ瀬 ◇10月10日、ピクニックの森でエゾビタキ1羽。折れた木の先端のお立ち台へ何度となくとまってくる。◇10月10日、大久保農耕地A区でダイサギ、ヒバリ。用水路の縁石の上にカワセミ（陶山和良）。

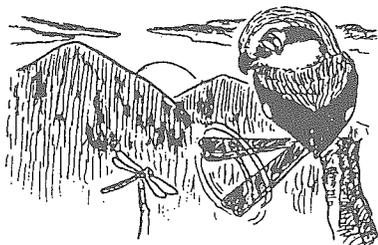
表紙の写真

オナガ（カラス科）

春日部市内の自宅の庭で撮影しました。

外園たけの

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆11月1日(土) 上尾市・丸山公園探鳥会は10月号をご覧ください。

長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：11月8日(土)～9日(日)

定員に達しましたので締切りました。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月8日(土)

集合：午前9時20分 東武鉄道日光駅前。集合後バスで現地へ。

交通：東武伊勢崎線春日部7:42発(快速)日光行に乗車、切符は〔日光フリー切符〕が便利でお得です。

解散：午後3時半ごろ、湯滝付近にて

担当：中島(康)、福井(恒)、櫻庭

見どころ：紅葉の賑わいも過ぎて静かになった奥日光周辺は落ち葉の季節。赤沼から戦場ヶ原、湯滝へと約5km歩きます。時雨れると寒いかも。身支度、足揃えはしっかりと。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月9日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、高橋

見どころ：昨年の今ごろは毎年来てくれるカモ類の殆どが揃っていました。今年も

期待しましょう。明戸堰の上流ではコハクチョウもきっと見られると思います。河原の風は冷たいのでそれなりの準備をお忘れなく。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月9日(日)

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅東口前
担当：高草木、佐久間、石井(幸)、志村、中村(治)、神場、中村(祐)、下川、村上、遠藤

見どころ：都市化の波の中で僅かに残った田圃に、今年も期待に応える貴公子タゲリ君と飛翔するチョウゲンボウ君。流れに沿って採餌するカモ類の姿もじっくりと観察しましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月16日(日)

集合：午前8時30分 東武伊勢崎線春日部駅西口東武バス1番バス停前。集合後バスで現地へ。8:45発→高野台下車。または午前9時15分アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村(栄)、橋口、篠原(東)、入山、松永

見どころ：晩秋の内牧は渡ってきた冬鳥で賑わいを見せています。林ではジョウビタキ、カシラダカ、アオジ。刈田ではタヒバリ、ツグミがお待ちしています。もしかして今年も思わぬ鳥が出て

行事報告



8月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 42人 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ バン キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(22種) 鳥枯れの公園で、暑さをボヤきながらの探鳥会。それでも、カワセミ、トビ、ゴイサギとアオサギ、バンとカイツブリの営巣、チョウゲンボウなどが見られたのは参加者の熱意の賜物だろう。センター2階のロビーからは、数年ぶりに咲いたミズオオバコの花が水面から顔を出しているのが見られた。(岡安征也)

8月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 14人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ キジ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(25種) 朝より猛烈な暑さだったが、14名も参加。しかも半分が遠方の方々だった。出現鳥は一般的なものだったが、全員モクモクと暑さに耐えて歩行。帰りはさすがに全員電車で戸町から大麻生に戻った。この暑さの中で、どんな鳥が見られるかの他に、どんな人が集まるかを見るのも面白いと言っていた人がいた。(和田康男)

8月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 51人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ サシバ キジ バン キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ

シブトガラス(27種) 暑い夏が一瞬去ったような日和。旧盆が終わり、夏休みが半ばを過ぎた、ちょっと空白の時間に51名が集まった。一足早くサシバが2羽上空を飛んで、参加者たちを非常に楽しませた。鷺の勉強会も開催。5種の識別を学び、夏でも満足した探鳥会だった。(橋見邦博)

8月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 22人

新井良夫、荒木恒夫、石曾根外成、岩上照代、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、後藤康夫、後藤喜久子、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、橋口弘視、日根七郎、藤野富代、森力、山本和樹、山本和代、山本義和

8月31日(日) 第14回リターナー研修会

場所: 県民活動センター 参加: 47人

本部より安西英明・遠藤和代・法月稚津余の3氏においでいただく。参加者全員の自己紹介のあと、榎本普及部長の進行で「よりよい探鳥会をめざして」活発な討論が行われた。大宮に場を移しての懇親会ともども実りある一日であった。今回、新規の受講者(13人)は次の方々。荒木隆久、今井新治、喜多峻次、後藤康夫、佐藤壮伍、高橋ふみ枝、田中幸男、中里裕一、堀口芳嗣、増尾隆、松井昭子、宮崎栄治、山田泰則。

9月7日(日) 千葉県船橋市 船橋海浜公園

参加: 22人 天気: 晴

カワウ コサギ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ ユリカメ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ハクセキレイ セッカ スズメ(22種) 集合場所では東京支部も一緒になった。ミヤコドリが越夏しているとのことと期待したが、浜辺に出てみると潮はよかったものの南風が強くて波が立ってお

り、ミヤコドリは見られず、シギ・チドリも少なかった。アフターで弁当を食べながら、チゴガニやコメツブガニが穴から出てくるところを見られた。(佐久間博文)

9月7日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 56人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ウズラシギ ハマシギ エリマキシギ アカアシシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ スズメ ムクドリ (34種) 潮回りが悪くてどうなることかと思っただが、だんだんとシギ・チドリが現われて安心した。アカアシシギ、キアシシギ、アオアシシギと3色揃ったのは珍しい。初めての参加者には佃煮状態の鳥を観察する困難さが身にしみたかもしれない。(杉本秀樹)

9月13日(土) 千葉県木更津市 小櫃川河口

参加: 21人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ミサゴ トビ オオタカ キジ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン オジロトウネン ハマシギ ミユビシギ オバシギ エリマキシギ アカアシシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オグロシギ オオソリハシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ ウミネコ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ モズ セッカ ハシブトガラス (40種) 東京湾に唯一残った広大な干潟の中を歩いて、シギ・チドリを観察した。アカアシシギやエリマキシギ、オバシギなど19種のシギ・チドリを見ることができた。ハイライトは、ミサゴがボラを捕えて杭の上で食べるのを存分に見ることができたこと。種数、羽数を多く見られたので、皆さん満足のような感じだった。(中島康夫)

9月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 24人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ

ギ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ キジ バン アオアシシギ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ セグロヒキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 朝から今にも降り出しそうな怪しげな天気だったためか、参加者は24人と少なかった。悪天候で外に出られず、ウズウズしていた人ばかりだったが、野には渡りの兆候はまだ見られなかった。明戸の堰で毎度おなじみのカモ、サギ、バン等に会って特記事項も無いままに終了した。大麻生駅への帰り道、荒川の対岸にミサゴを発見。じっくり観察できて本日最高の気分となったが、鳥合わせ後であったことがちょっと残念。この幸運にあずかったのは10人。後からの人も見られたかな? (和田康男)

9月15日(月、休) シギ・チドリ類調査

場所: 秋ヶ瀬 ボランティア: 14人

浅見健一、浅見徹、石井智、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、新堂克浩、高剋宏、高文子、福井恒人、藤掛保司、松井昭吾 ㊦ 雨の中をご苦労様でした。

9月21日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 27人 天気: 曇

ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ミサゴ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ イカル スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 朝一番、枯れ枝に止まったオオタカの出迎えを受けて出発。台風19号の影響か初出現のミサゴが飛んだ。期待のコシアカツバメとヤマセミの姿には会えなかったが、畦道のヒガンバナやカラスウリの黄色い実、クズの赤紫色の花などが秋を感じさせた。(高草木泰行)

9月27日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 16人

新井良夫、荒木恒夫、岩上照代、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、田中久美子、丹茂子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆

連絡帳

●「海上の森」を守る署名運動

「海上の森」は「かいしょのもり」と読みます。愛知県瀬戸市にある自然豊かな森ですが、2005年に開催が決定した愛知万博の予定地にされていて、壊滅的な打撃が予想されます。

そこで、万博オンブズマン（〒451名古屋市中区江向町1-60、TEL 052-524-1586昼のみ）と海上の森自然観察会（〒489瀬戸市柳ヶ坪町98-5、TEL0561-84-2953夜のみ）が主催する「万博の開催予定地変更を要望する署名運動」が始まりました。

当支部にも協力を求める手紙が届き、9月20日（土）に開催した役員会議で署名運動に協力することを決議し、各探鳥会などで書類用紙の配布を始めました。趣旨や署名の送り先は、署名用紙に記載されています。ご協力をお願いします。

海上の森の参考図書としては、『海上の森の詩』1,500円、『海上の森の花・虫・樹』1,890円、『海上の森の野鳥たち』1,500円、『海上の森』1,400円、『自然博物館あいち』100円、があります。海上の森自然観察会にお問い合わせ・お申し込みください。

なお、カンパの宛て先は、「郵便振込0085 0-7-67861万博オンブズマン」です。

●会員の著書紹介

浦和市在住の会員・佐藤信治さんが、『庭にきた虫ーいのちのドラマを親子でみる』（社団法人農山漁村文化協会発行、189ページ1,950円）を出版しました。自宅の庭の虫たちを子供や孫たちと30年あまりにわたって見続けた記録を、鮮やかなクローズアップ写真といかにも技術者らしい図表などで紹介した、ユニークな本です。

発行所：TEL 03-3585-1141、FAX 03-3589-1387。

●県自然学習センターが写真募集

テーマ：野生の生き物（動物・昆虫・植物な

ど）

募集期間：12月2日～平成10年1月20日

展示期間：平成10年2月11日（水）～22日（日）

午前9時～午後5時（最終日午後4時迄）

本人が撮影した未発表作品に限る。四つ切り。白黒可。額はセンターのものを使用。一人2点まで。直接センターに持参し、センター受付で配布している出品票を添付して出展のこと。写真裏面に氏名・住所・電話番号明記。出展者に記念品贈呈。終了後作品返却。問い合わせ：同センター TEL 0485-93-2891

●11月の事務局 土曜と日曜の予定

15日（土）編集会議。研究部会議。

22日（土）校正作業。役員会議。

29日（土）袋づめの会。

●会員数は

10月1日現在2,948人です。

活動報告

9月13日（土）編集会議。研究部会議。

9月20日（土）校正作業（海老原美夫・喜多峻次・工藤洋三・桜庭勇）。

同日 役員会議（司会：藤掛保司、各部の報告・海上の森署名運動の件・蓮田市中央公民館の件・その他）。

9月24日（水）あさひカード探鳥会指導依頼と打ち合わせ（事務局）。

9月29日（月）10月号郵便局から発送（海老原教子・桜庭勇・中村策男）。

編集後記

鳥のことは心の隅に置いて、体が動くうちにといいながら、ここ何年かはカヌーを楽しんでいます。最近、仲間につき合っ、ロードオの真似事を始めました。水の勢いを利用してカヌーを立てたり回したり…できるはずなんです。現実には厳しく、転覆してばかり。エスキモーロールで起き上がるのだけはうまくなってるようですが。これでまた2～3年は楽しめるかな。（森本）

『しらこぼと』1997年11月号（第163号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）

再生紙使用